

**平成 25 年度**

**工業標準化事業表彰**

**平成 25 年 10 月 3 日**

**経　済　産　業　省**

# 目 次

1. 工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰	(個人 1名) · · · · ·	1
2. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (個人)	(個人 20名) · · · · ·	2
3. 工業標準化事業表彰 経済産業大臣表彰 (組織)	(組織 4組織) · · · ·	8
4. 國際標準化貢献者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 21名) · · · · ·	9
5. 國際標準化奨励者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 7名) · · · · ·	16
6. 工業標準化功労者表彰 産業技術環境局長表彰	(個人 5名) · · · · ·	18

## 平成25年度工業標準化事業表彰 内閣総理大臣表彰受賞者

### 正田 英介（まさだ えいすけ）

国立大学法人東京大学 名誉教授  
公益財団法人鉄道総合技術研究所 会長

#### 【略歴】

1937年生 75歳  
1965年：東京大学大学院数物系研究科博士課程修了  
1982年：東京大学工学部教授  
1993年：東京大学大学院工学系研究科教授  
1998年：東京理科大学理工学部教授・東京大学名誉教授  
1999年：鉄道総合技術研究所評議員  
2001年：電気協同研究会会长  
2003年：富士電機ホールディングス株式会社取締役  
2004年：日本工業標準調査会副会長  
2007年：公益財団法人鉄道総合技術研究所会長

#### 【主な功績】

- 日常生活において多くの電気・電子機器が使われている現在、それら機器が適切な電磁両立性（EMC）を備えることは極めて重要。EMCの国際標準化を議論するIEC/TC77の国内審議委員会の委員長及び日本代表委員、IEC/AEC（電磁気両立性諮問委員会）の委員を務め、我が国からの多数の技術提案を規格に反映させるとともに、参加国も多く利害調整が大変困難な分野の国際標準策定作業を進展させるなど、その功績は極めて大きい。
- また、IEC/TC9（鉄道用電気設備とシステム）での国際標準化においても、我が国のプレゼンス向上に努め、当該分野における我が国発の国際標準提案を実現。総務省、国交省、経産省等複数の省庁にまたがる国際標準化の推進に大きく寄与。
- 2004年からは日本工業標準調査会副会長を務め、我が国の標準化活動をリードするとともに、IEC総会におけるJISC団長を3度務めるなど、我が国の標準化活動に多大な貢献。
- 2003年から2012年まで日本工業標準調査会適合性評価部会長を務め、我が国の適合性評価制度の発展に多大な貢献。

#### 【受賞等】

1996年：日本工業標準化事業表彰通商産業大臣表彰  
1999年：電気学会功績賞・運輸省交通文化賞  
2000年：IEEE2000記念メダル・EPE/PEMC功績賞  
2010年：電気保安功労者経済産業大臣表彰  
2011年：安全功労者内閣総理大臣表彰

[敬称略]

## 平成25年度工業標準化事業表彰経済産業大臣表彰受賞者

**個人**

NO	氏名	所属	主な功績
1	いまづ 今津 隼馬	国立大学法人東京 海洋大学 名誉教 授	ISO/TC8(船舶及び海洋技術)SC6(航海 及び操船)の国際議長を務め、船舶分野の多数の 国際規格の策定を主導。船舶分野においては、I SOで定める国際規格が、IMO(国際海事機関) の定める各種基準と密接に関連しており、難しい 舵取りが求められる中、その双方に深く携わり、 航海の安全・国際ニーズへの対応・国際市場への 指標提供及び国内製品の輸出等、我が国海事分野 の国際競争力向上に多大な貢献。
2	いわもと 岩本 威生	日本化学キューエ イ株式会社 取締 役 調査企画部長	ISO/CASCO(適合性評価委員会)国内委 員会委員やJISC適合性評価部会・標準部会管 理システム規格専門委員会委員として、我が国に おけるマネジメントシステム適合性評価制度の確 立及び発展に多大な貢献。認定機関設立準備や化 学試験所の認定活動、要員評価機関の運営へ尽力 するとともに、日本マネジメントシステム認証機 関協議会(JACB)品質技術委員長として、マ ネジメントシステム認証制度の普及・啓発活動にも 大きく貢献。
3	うしお 牛尾 誠夫	学校法人鉄鋼学園 産業技術短期大学 学長	日本工業標準調査会溶接技術専門委員会臨時委員 を14年間もの長期間務める他、平成9年にISO との専門業務協定締結機関であるIIW(国際溶接學 会)第XII委員会[溶接・接合プロセス]委員長に日 本人として初めて就任するなど、溶接技術分野に おける国際的なリーダーシップを發揮して全体の レベルアップを推し進め、我が国の溶接技術や溶 接業界の発展に多大な貢献。25種類ものISO規格 制定に関与し、技術及び日本の国益の両面からの 確な指導を行うとともに、日本工業規格の制定及 び改正を通じて、溶接構造物の信頼性向上と安心・ 安全な社会システムの構築に尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
4	うらべ ト部 ひとし 仁	国立大学法人静岡 大学 イノベーシ ョン社会連携推進 機構 客員教授	ISO／TC42（写真）、TC130（印刷）及びIEC／TC100（マルチメディア）のエキスパート、PL等として当該分野での国際規格の策定等で多大な貢献。特に、標準画像に関する国際規格の策定にあっては、TC42・TC130両方のエキスパートという優位性を活かし、日本の意見を反映する改正を実現。デジタルカメラの画像データフォーマットでは、日本の関係業界の合意形成に尽力し、統一規格であるExif/DCF規格に集約させ、我が国の競争力強化に大きく寄与。カラーワークフロー標準の普及啓発・教育にも尽力貢献。
5	おおむら あきと 大村 昭人	学校法人帝京大学 名誉教授	ISO／TC121（麻酔装置及び人工呼吸器関連装置）の我が国の代表を長期にわたり務め、本TCが医師の知見等の専門性を要する中、医師として本TCの主要メンバーの一人となり、我が国の意見を反映するなど貢献大。国内においては、国内審議団体の充実のため関係企業群からの積極参加を推進し、JISC臨時委員として、医療機器分野におけるJIS標準化活動に長年尽力。さらに、我が国の先端医療機器の基準認証制度の改革に積極的な提言を行うなど、医療機器産業の発展に寄与。
6	おぐら ひでお 小倉 英夫	学校法人日本歯科 大学 名誉教授	ISO／TC106（歯科）で作成した国際規格の多くは日米欧において強制法規に引用等されているが、本TCのSC7（オーラルケア用品）の国際議長として長年活躍。現在は、我が国の提案によって新設されたSC9（歯科用CAD/CAMシステム）の国際議長に就任するなど本分野における我が国的第一人者。世界的にも強い発言力を有し、国際標準化に多大な貢献。国内においては、主に歯科器械分野のJISの原案作成委員会委員長及びJISC臨時委員としてこれら国際規格の国内への導入・普及に尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
7	くしき よしあき 櫛木 好明	パナソニック株式会社 R&D本部顧問	IEC/MSB（市場戦略評議会）日本代表委員（2期6年）。企業委員としての経験と知見を生かし精力的に活動。特にマイクログリッド、大規模災害対策関連標準化の役割を提案し、プロジェクトリーダーとして、ゼロから国際検討体制の構築、諸国関係者との調整等を行いつつ、我が国やアジアなどの新興国での事例を取り込んだ白書をとりまとめた。その他、次世代標準化人材養成プログラムで我が国の次代を担う若手標準化技術者の育成にも積極的に貢献。
8	くまざわ のぶまさ 熊澤 信雅	株式会社タカホ製作所 監査役	ばね分野のJIS B2808（スプリングピン）、JIS B0103（ばね用語）等のJIS原案作成に長年に亘って多大な貢献。また、日本が国際幹事を務めているISO/TC227（ばね）の国内委員として参加されており、ばね分野での国内外の標準化に尽力し貢献。
9	しばはら よしひこ 芝原 嘉彦	富士フィルム株式会社 R&D統括本部 知的財産本部 国際標準化推進室 嘴託	IEC/TC110（電子ディスプレイデバイス）において、液晶ディスプレイの動画質の標準化に尽力し、薄型テレビの世界的普及及び我が国の優位性確保に多大な貢献。また同TCの国際幹事就任後は、レーザーディスプレイ、及びタッチパネルの国際標準化について関係国からの多様な意見を調整しロードマップを明確化する等、国際競争の激しい当該分野においてバランスのとれた国際標準化活動の推進に尽力。さらには、ISO/TC42（写真）においても、カラー写真プリントの性能試験法の適正化に尽力し、世界的な市場品質向上に寄与。
10	すえまつ ゆきひこ 末松 征比古	三甲株式会社 社長室 室長	ISO/TC61（プラスチック）/SC11（製品）及びSC12（熱硬化性樹脂材料）の双方で長年に渡り国際議長を務め、国際規格開発活動を牽引するとともに、産業界の意向を盛り込んだ国際規格の提案を推進するなど、我が国産業界の発展のみならず、世界における我が国のプレゼンスの向上に多大な貢献。 また、トップスタンダード制度を活用した「異種材料複合体の特性評価試験方法」の国際標準化では、SC11で対応すべく積極的に立ち回り、各国からの支持を得て提案に導くなど、新たな提案制度による迅速な国際標準化にも極めて大きな貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
11	たけうち こうじ 竹内 浩士	独立行政法人産業 技術総合研究所 評価部 首席評価 役	I S O / T C 2 0 6 (ファインセラミックス) 傘下 WGのコンビナーとして、日本発の技術である光 触媒材料に関する多数の国際規格の制定を主導。 また、可視光応答形光触媒材料の性能評価試験方 法に関する国際標準協調事業において、アジア 10 カ国が参画する中、その委員長を務め、アジア各 国との協調に多大な貢献。
12	たつた としお 竜田 敏男	学校法人岩崎学園 情報セキュリティ 大学院大学 セキ ュアシステム研究 所 客員研究員	情報セキュリティ分野の国際・国内標準化活動に 長年尽力。J T C 1 / S C 2 7 (セキュリティ技術) で、多数の国際規格作成に貢献するとともに、 J I S 化も多数。S C 2 7 / W G 2 (暗号とセキ ュリティ機構) の副コンビナを務め、同S C の運 営改革等にも多大な貢献。また、情報技術専門委 員会委員、規格調整分科会委員等を務め、J I S 原案の書式と規定内容の適正化に多大な貢献。 さらに、I S O 電子投票システムの構築やI S O / I E C / I T U 共通特許取扱規定の作成に参画し その実現に寄与。J T C 1 業務用指針の改訂にも 参画中。
13	たなか たつひこ 田中 龍彦	学校法人東京理科 大学 工学部 第 一部 工業化学科 嘱託教授	日本鉄鋼連盟の規格三者委員会副委員長として、 これまで約 2 0 0 件の鉄鋼関連 J I S の原案作成に 寄与した他、化学分析、試薬、チタンの製品・ 用語等の J I S 原案作成委員会委員長として規格 作成を主導。日本工業標準調査会 (一般化学技術 専門委員会長他)、N I T E の J C S S 評定委員会、 A S N I T E - N M I 評定委員会、標準物質 情報委員会、国際計量研究連絡委員会物質量標準 分科会の委員として我が国の分析技術の標準化の 普及並びに知的基盤整備に貢献。鉄鋼業・他の産 業界に対し分析技術の開発を指導し産業界の発展 に大きく寄与した。

NO	氏名	所属	主な功績
14	とよだ 豊田 みつる 充	東芝変電機器テクノロジー株式会社 電力流通産業システム社 浜川崎工場 シニアエキスパート	I E C / S C 1 7 A (高圧開閉装置及び制御装置)において開閉装置の標準化に長年にわたり貢献。近年では、国内外で建設設計画が進められているU H V (超高压)送電において電力系統の信頼性向上と品質安定のために重要な役割を果たす開閉装置について、日本初の技術に基づく高速接地開閉器 (H S E S) の国際規格化を提案しコンビナとして国際規格化を推進。また、世界的な再生可能エネルギーの利用増加を受け昨年度日本主導で設置した I E C / T C 1 2 0 (電気エネルギー貯蔵システム)において、国際副幹事を務め、TCの今後の活動方針等の検討をリード。
15	はった 八田 いさお 熟	一般財団法人日本規格協会 標準部 技術参与	J I S Z 8 3 0 1 (規格票の様式及び作成方法)、J I S S 0 1 0 4 (消費生活用製品のリコール社告の記載項目及び作成方法)など重要かつ幅広い分野のJ I S原案作成に長年に亘って多大な貢献。また、J I S原案を作成する際に必要となる規格作成手順などの知識習得のための研修において講師を担うなど、標準化の普及・啓発に尽力し貢献。
16	はやし 林 ひさし 央	独立行政法人理化学研究所 本部 広報室 業務嘱託	I S O / T C 7 9 (軽金属及び同合金)の日本代表及びI S O / T C 1 6 4 / S C 2 (金属の機械試験／延性試験)国際幹事の役割を通じて、アルミニウム関連を中心とした戦略目標を具体的に設定して国際標準化を戦略的に推進。I S O / T C 7 9 / S C 6 / W G 2 のコンビナーとして、アルミニウム押出材の IS06362-1～7 改正を推進するなど、アルミニウム板材、はく及び引抜材を含め合計19件のI S O規格の作成・発行に尽力し、アルミニウム関連業界の発展に多大な貢献。
17	ふじた 藤田 としひろ 弘	I D E C株式会社 技術戦略本部 常務執行役員 技術戦略担当 技術戦略本部長 I D E Cグループ Chief Technology Officer (C. T. O.)	I E C / S C 1 7 B / W G 3 (低圧開閉装置及び制御装置)に日本代表として参画し、3ポジションイネーブルスイッチ (産業用ロボットのタイミングペンダント等に使用される安全装置)の国際規格化を提案し日本主導で成立。これにより、世界の主要ロボットメーカーの安全操作装置として当該スイッチが使用されることとなり、我が国の世界シェア拡大及び世界の生産現場の安全化に多大な貢献。また、上記経験を踏まえ、事業戦略と連動した国際標準化戦略の重要性に関する講演等を多数行い、国際標準化に関する普及・啓発にも尽力。

NO	氏名	所属	主な功績
18	みずはら きよし 水原 清司	一般社団法人日本 工作機械工業会 技術部 嘴託	工作機械分野の国際、国内標準化に長年にわたり尽力。特に、我が国工作機械産業の主要輸出製品である旋盤、ターニングセンタ、フライス盤については、JIS原案作成委員会委員長としてJIS整備を強力に推進するとともに、ISO/TC39/SC2（工作機械の精度検査）への国際提案に尽力。また、欧米主導で国際規格が制定されたマシニングセンタ用工具保持具について、我が国の工業会規格をJIS化した上で国際規格に反映させることに尽力、これを成功させ我が国製品の国際市場からの排除を防ぎ国際競争力強化に寄与する等多大な功績。
19	もうり もとや 毛利 元也	元 株式会社日本 ビクター	機器・装置用図記号の分野の国際、国内標準化に長年尽力。IEC/SC3C（機器・装置用図記号）において、国内審議委員会委員長及びIEC60417（機器・装置用図記号）のメンテナンス国際チームの日本代表を務め、データベース形式を採用し頻繁に新たな図記号の追加や修正が可能となっている当該規格への我が国意見の反映及び適正なメンテナンスに多大な貢献。また、JISZ8221シリーズ（機器・装置用図記号の基本原則）の改正作業にも尽力。
20	やまね 山根 さとし 敏	国立大学法人埼玉 大学 理工学研究 科 准教授	IEC/TC26（電気溶接装置）の国内対応委員会委員長等を務め、当該分野の国際標準化対応に長年尽力。電気アーク溶接機の中心的規格であるIEC60974-1（アーク溶接電源）について、耐電圧試験が電力系統システムの違いによりJISと当該国際規格とで異なっていたが、我が国の実情に合った耐電圧試験を含んだ国際規格へ修正させるなど多大な貢献。また、国際規格を反映したアーク溶接機に関するJISC9300シリーズの制定・改正においても、原案作成委員長として中心的な役割を担い多大な貢献。

[五十音順、敬称略]

## 組織

NO	組織名	主な功績
1	一般財団法人 自転車産業振興協会	自転車及びその部品に関する標準化活動に尽力。特に国際標準化活動においては、ISO/TC149（自転車）/SC1（自転車及び主要アセンブリ）の幹事国業務を担っており、これまで欧州中心で作成されていた自転車分野の国際標準に対して、主導的立場を発揮し、我が国の意見を積極的に盛り込んだ規格改正に成功している。また、自転車製品の重大事故については、迅速にその事故原因と現行JISの検証を行い、JIS改正に繋げていくことによって、一般消費者が日常的に使用する自転車の安全性確保に大きく貢献。
2	一般社団法人 電気学会 電気規格調査会 UHV国際標準化委員会	我が国が技術的優位性を持つUHV（超高圧）送変電技術を世界に展開していく中で不可欠な国際標準化活動のために、学識者・電力会社・メーカー等からなるオールジャパンの組織として発足。当該技術は多くの機器を含む電力システムとしての総合技術であるため、IECの上層組織及びその検討結果がIEC規格の根拠となることが多いCIGRE（国際大電力システム会議）に戦略的に働きかけ、両組織が協調した規格化活動をスタートさせることに成功。日本提案の「1100kV」が採用された標準電圧規格をはじめ、これまでに12の水平及び機器規格が制定されており多大な貢献。
3	一般社団法人 日本鉄鋼連盟	2009年「鉄鋼CO <sub>2</sub> 排出量・原単位計算方法ISO規格化専門委員会」を設立し、「鉄鋼CO <sub>2</sub> 排出量・原単位計算方法」についてISO/TC17（鋼）（幹事国：日本）での新規提案に尽力。国際規格化を進めるためにISO/TC17内に新設されたWG21において、日本鉄鋼連盟内の「鉄鋼CO <sub>2</sub> 排出量・原単位計算方法ISO規格化専門委員会」委員長がコンビーナを勤め、日本鉄鋼連盟関係者もエキスパートとして参画し、2013年のISO14404（鉄鋼CO <sub>2</sub> 排出量・原単位計算方法）としての国際規格化に多大な貢献。
4	一般社団法人 日本ロボット工業会	ロボット関係の標準化活動に30年以上に亘り尽力。JIS B0134（産業用ロボット用語）の原案を作成して以降、40件以上のJISの制定・改正原案を作成。また、ISO/TC184/SC2（ロボット及びロボティックデバイス）の国内委員会を運営し、国内審議活動の中核的役割を担っており、近年では介護現場への貢献や新産業の創出が期待されている生活支援ロボットの安全性に関する国際標準化において国内で実際に開発されたロボットをベースに国際規格開発をリードする等多大な貢献。

[五十音順]

平成25年度国際標準化貢献者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	いのうえ ひろし 井上 博史	一般社団法人日本電機工業会 技術部 技術企画課主任	電力・産業機器に関するIEC規格の制定・改正作業に幅広く関わり、国際規格への日本の電機業界の意見反映に尽力。特にIEC/TC22（パワー・エレクトロニクス）においては、インバータなどの可変速駆動システム（PDS）のEMC規格の過度な試験レベルを見直し適正水準とするなど、数多くの日本提案を国際規格に反映。また、IEC/SC77A（低周波EMC）、TC106（人体ばく露に関する電磁界の評価方法）等、機器横断的な分野においても、国内委員会幹事として日本意見の包括的な取りまとめに尽力。
2	いわもと まさや 岩本 昌也	一般財団法人日本品質保証機構 マネジメントシステム部門 審査事業センター・食品安全審査部 参事	ISO/TC34/SC17（食品安全のためのマネジメントシステム）のエキスパートとして規格の開発に長年関与。特に、ISO22000（食品安全マネジメントシステム—フードチェーンのあらゆる組織に対する要求事項）をはじめ、ISO/TS22004（ISO22000適用の指針）及び、ISO/TS22003（審査認証機関に対する要求事項）などの関連規格の開発の際は、日本意見をとりまとめ規格への反映に貢献。また、国内委員会委員としてISO規格類の翻訳版及び解説書の監修を行う等、我が国におけるISO22000シリーズの理解と普及に貢献。
3	おおい 大井 ゆうじ 大井 裕司	株式会社フジクラエネルギー・情報通信カンパニー エネルギー・情報通信事業部 国内インフラ技術部 主席技術員	2007年から、IEC/TC20（電気ケーブル）/WG17（中低圧ケーブル）にエキスパートとして参画。電気ケーブルに関するIEC規格・文書の審議において、国際会議で日本を代表して意見を述べ、我が国提案の反映に尽力。また、2012年に招致したTC20東京総会において、省エネルギー・二酸化炭素削減といった環境性を配慮した日本発案の「環境配慮導体サイズ設計」に関するプレゼンテーションを行い、その国際規格化を主導するなど当該分野の国際標準化活動に多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
4	かりや よしはる 苅谷 義治	学校法人芝浦工業大学 工学部 材料工学科 教授	鉛フリーはんだの実用化に際してはんだ接合部の信頼性試験方法が定まっておらずその標準化が世界的に切望されていたとき、IEC/TC91（電子実装技術）において自ら考案したはんだ接合部の真の信頼性を高精度に事前評価・予測する試験方法を提案しIEC62137-5として国際規格化。また、鉛フリーはんだの疲労寿命の支配因子を学術的に解明し、当該研究成果を基にそれまでののような経験則ではなく理論的なアプローチにより新しいはんだ接合部の疲労寿命予測方法を構築。現在、当該予測方法を取り入れたIEC62137-4の改正作業に従事する等多大な貢献。
5	さかい ひろたか 酒井 宏 隆	株式会社東芝 府中事業所 原子力計装制御システム部 原子力計装システム設計担当グループ長	IEC/TC45/SC45A/WG5（原子炉特殊計装・放射線モニタリング）のコンビーナとして同WGの規格審議及びメンテナンス計画をリードするとともに、関連する同TC内の他のWG規格審議にも参加し活躍。IEC/TC45国内委員会及び放射線計測関連のJIS原案作成委員会にも参加し、IEC規格の規定内容の問題点を国内からの審議意見としてまとめ、IEC/TC45の年次会議及びWG中間会合での各国専門家との審議を通じて実規格に反映させるなど日本の国際標準化のポジション向上に多大な貢献。
6	さかい ひろゆき 坂井 宏 行	公益財団法人鉄道総合技術研究所 事業推進室 事業企画課長	ISO/TC190（地盤環境）に日本代表として参画し、地盤汚染調査の迅速化、低コスト化などに資するスクリーニング方法の標準化の必要性を説き、SC3/WG10（予備試験法）の新設に成功。従来、TC190では地盤汚染の精密な試験法の規格化だけを進めていたが、スクリーニングという概念の追加は、我が国が競争優位を有する分野の発展に極めて多大な貢献。コンビーナとして同WG会議の運営に尽力し、これまでに日本提案の試験法2件の国際標準策定に貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
7	さとう ひでたか 佐藤 秀 隆	株式会社NTTファシリティーズ 研究開発本部 リスクマネジメント システム部門 部門長	IEC/SC37A(低電圧サージ保護デバイス)、SC37B(サージ防護デバイス用部品)の国内委員長、国際エキスパート等を務め、当該分野の国際規格への日本意見の確実な反映に尽力。また、他のTCとの間で議論のあったTSS(サージ保護サイリスタ)及びサージ防護用ABD(アバランシブレークダウンダイオード)の審議主体について、SC37Bが適切であると調整し、日本のプレゼンス向上に寄与。さらには対応JISの開発においても11規格の制定・改正に貢献。特にTSSの試験方法に関するJIS C5381-341については主査として原案取りまとめに尽力する等、当該分野の標準化活動に大きく貢献。
8	たかはし ひろし 高橋 弘	富士電機株式会社 技術開発本部 製品技術研究所 パワエレ技術研究センター 共通技術開発部 主席	IEC/TC22(パワーエレクトロニクス)において、インバータなどの可変速駆動システム(PDS)のプロファイル規格を日本メーカーも容易に適合できるように海外の特定メーカーが有利になる記述を規格案の段階で削除し公平性の高い規格としたり、パワーエレクトロニクス全体の電気安全規格に欧米と異なる日本の試験方法等を反映させるなど、幅広く貢献。また、IEC/TC77(電磁両立性)では、それまで認証機関によって試験方法が異なっていた機能安全部のEMC試験について、統一的な試験方法を提案し国際規格化を実現するなど多大な貢献。
9	たきざわ よしろう 滝沢 佳郎	JFEテクノリサーチ株式会社 品質保証部 部長	ISO/TC17/SC1(化学成分の定量方法)の議長として各国の主張を考慮した積極的な仲介提案や、少数意見の尊重及び透明性を重視したルール構築等、校正な運営で日本の地位の維持・向上に貢献。また、ISO/TC102/SC2(化学分析方法)の3つのWGのコンビーナとして、熱分解・よう素カリウム滴定法、鉄分離原子吸光法、三酸化チタン還元滴定法の日本提案を行い、鉄鉱石分析の重要なJISのISO化を主導したことは、日本のみならず世界への多大な貢献。日本鉄鋼連盟では約100件のJIS原案作成に携わった。

NO	氏名	所属	主な功績
10	たけべ たつあき 武部 達明	横河電機株式会社 IA-MK本部 テクノロジMK室 マネージャ	ISO/IEC JTC1/SC27(セキュリティ技術)、IEC/TC65(工業プロセス制御)における国際標準化に貢献。特に、セキュアなソフトウェア開発の重要な指針となっているアプリケーション・セキュリティの国際規格化において、当該規格の中核となるASC(アプリケーションセキュリティ対策)の実例を作成し当該規格の実現可能性を反対国に実証、規格成立に大きく貢献。
11	ちば ゆうすけ 千葉 祐介	一般財団法人日本規格協会 標準部事業企画ユニット	ISO/TC164(金属の機械試験)の国際幹事を務め、最近では、2013年6月に設置されたISO/TC282(再生水)の国際幹事に就任し、国際標準開発に尽力。更には、マネジメントシステム規格(MSS)等のISO国内委員会事務局を歴任し、ISO14005(ISO14001の段階的適用)、ISO14006(エコデザイン)、Guide64(製品規格に環境側面を導入するための指針)等の開発に尽力した他、MSSの共通テキスト及び共通用語を定めたISO/IEC専門業務用指針第1部AnnexSLの開発に尽力するなど、国際標準化に多大な貢献。
12	つかはら ひとし 塚原 仁	日産自動車株式会社 電子アーキテクチャ開発部 主査	ISO/TC22/SC3(電気・電子装置)/WG3(電気妨害)及びIEC/CISPR(国際無線障害特別委員会)D(自動車及び内燃機関に関する妨害)のエキスパート及び国内分科会長を長年に亘り務め、車載電気電子装置の妨害電磁波関連標準の策定に尽力。自動車及びその部品の電磁波耐性試験方法等に関し、日本より新規作業項目を提案するとともに、標準策定の審議における議論を国際的にリード。試験効率の向上や高信頼性の確保に寄与するとともに、我が国の自動車産業発展の基盤強化に多大な貢献。
13	のじま あきひこ 野島 昭彦	トヨタ自動車株式会社 電子技術統括部 主幹	ISO/TC22/SC3(電気・電子装置)/WG3(電気妨害)及びIEC/CISPR(国際無線障害特別委員会)D(自動車及び内燃機関に関する妨害)のエキスパート及び国内分科会幹事を長年に亘り務め、建物内及び車載受信機の電磁波からの保護等に関する標準の策定に尽力。電動車両の充電時の電磁妨害試験の導入や直流充電時の擬似電源回路網の試験方法等を提案し、その一部は国際的な型式認定基準として用いられている国連規則に反映される等、我が国の自動車産業の国際競争力強化に多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
14	のむら しげとよ 野村 茂豊	株式会社日立製作所 情報・通信システム社 経営戦略室	誰もが参画できる情報社会の実現をめざして、アクセシビリティに対応する製品、サービスの普及促進のために、JTC1/SC35/WG6（ユーザインターフェースアクセシビリティ）及びJTC1/SWG-A（アクセシビリティ）の国内対応委員会幹事等としてアクセシビリティ関連規格の作成に積極的に参画し、その完成に多大な貢献。特に、情報処理装置及びその周辺装置等の情報アクセシビリティにかかるJIS X 8341-2の国際提案を進め、プロジェクトエディタとしてISO/IEC 29136:2012の制定に貢献。
15	ひらおか たつひろ 平岡 達弘	一般社団法人日本船舶品質管理協会 製品安全評価センター 次長	ISO/TC8（船舶及び海洋技術）SC1（救命及び防火）WG3（防火）のコンビナーとして、船内の火災発生の未然防止や、消火活動用の装具及び呼吸具等に関する国際規格の制定を主導。日本主導の国際規格案の策定作業、国際規格の国内取り込み等、国内の関連業界にも多大な貢献。
16	まつお けんじ 松尾 健治	株式会社安川電機 ロボット事業部 ロボット基幹技術部 部長	ISO/TC184/SC2（ロボット及びロボティックデバイス）、IEC/TC44/WG13（ケーブルレスコントローラのインターフェース）においてエキスパートとして活躍。産業用ロボットの設置に関する安全要求事項は生産システムの形を決める上で最も重要であるが、非常停止範囲の取扱いにおいて、全ての設備を一つの非常停止ボタンで停止させるのではなく、それぞれの設備の役割に応じて非常停止スイッチの範囲を明確化し表示することで、日本流の生産システム形態を維持しつつ安全を担保した生産性の高いシステムの構築を可能にするなど、多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
17	むろなか けんじ 室中 健司	富士通株式会社 S I 技術本部 システム技術統括部	I S O / I E C J T C 1 / S C 7 (ソフトウェア及びシステム技術) / W G 7 (ライフサイクル管理) の国内対応委員会幹事等を長年にわたり務め、国際規格の制定、改善、普及に一貫して尽力。特に、システム・ソフトウェア開発に係る取引適正化を図る上で重要となっているシステム・ソフトウェアのライフサイクルプロセス(作業体系)の国際規格化作業に当初から参画し、国内意見の集約・国際規格への反映、さらには当該国際規格に基づく J I S 原案の作成など国内普及に多大な貢献。
18	もりい けんじ 森井 健二	株式会社本田技術研究所 基礎技術研究センター 第5研究室 第1ブロック 主任研究員	I S O / T C 1 8 4 / S C 2 (ロボット及びロボティックデバイス) にエキスパートとして参加し、サービスロボット関連の国際標準化における我が国意見の反映等に尽力。特に、ロボットを非常停止させる場合に、全電源を遮断することが安全となるタイプと、二足歩行型や搭乗型の倒立振子タイプのロボットのように全電源を遮断することで不安定となり逆に危険源になるタイプがあることを運用実績から主張し、非常停止時のストップカタゴリの適用範囲をロボットのタイプ・機能に応じて設定することについてコンセンサスを形成する等多大な貢献。
19	やなぎ しゅういち 柳 秀一	日本電信電話株式会社 フォトニクス研究所 主幹研究員	I E C / S C 8 6 B (光ファイバ接続部品・受動部品)において、国際規格への我が国意見の反映にエキスパートとして尽力。特に、光コネクタ端面の外観検査の規格について、新品を想定して策定されたにもかかわらず、当該規格を運用時にも適用しようとする動きがあり、国内で運用されている多量の光コネクタが、保守時等に国際規格不適合となる事態になりかねなかったが、適切な新規格の策定を提案、詳細な技術検証等により関係者を説得し、我が国への悪影響を阻止する等、我が国の重要な分野である光ファイバ関連の国際標準化に多大な貢献。

No	氏名	所属	主な功績
20	よこい たかし 横井 孝志	独立行政法人産業 技術総合研究所 ヒューマンライフ テクノロジー研究 部門 副研究部門 長	ISO/TC159（人間工学）のSC3（人体 計測と生体力学）国内分科会主査に始まり、現在 ではTC159国内対策委員会委員長としてのべ 177名にも上る委員会をとりまとめ、これまで に120件を超える国際規格を審議し、国際会議 で日本の意見を主張し、日本提案の国際規格化に 貢献。これらの規格のJIS化に際しても、原案 作成作業等に貢献。また、他分野の団体が主導する 国際規格審議にも参画し、人間工学的知見や国 際経験を生かして、その分野の日本提案の国際標準化実現に貢献。
21	わかい のぶゆき 若井 伸之	株式会社東芝 セ ミコンダクター& ストレージ社 ア ナログ・イメージ ング IC事業部 品質信頼性技術部 信頼性第三担当 グループ長	IEC/TC47（半導体デバイス）において、 WG2（耐候性及び機械的試験）及びWG5（ウ エハレベル信頼性試験）のエキスパート、コンビ ナを務め、半導体デバイスの品質信頼性の指標と なる摩耗寿命又は故障率の見積もりに使用される 重要な試験方法の日本提案による国際規格化を推 進。また国際規格の開発過程において実施条件が 異なる他国提案との衝突が頻発する中、共通内容 の作成、選択肢の追加等を各国エキスパートに積極的 に働きかけ、我が国提案が反映された国際規 格化を実現する等多大な功績。

[五十音順、敬称略]

平成25年度国際標準化奨励者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	かわしま ゆみえ 梶 島 裕美枝	イオン株式会社 グループ環境社会 貢献部	環境管理規格審議委員会の委員及び ISOTC207 (環境マネジメント) /SC7 エキスパートを平成21年度より務め、国際標準 TS 14067- Greenhouse gases - Carbon footprint of products (CFP) -Requirements and guidelines for quantification and communication の開発に多大に貢献した。特に CFP 算定部分を担当し日本国内の基準を軸として積極的に関与、情報発信した。今後の国内外の標準化活動での一層の活躍が期待できる。
2	きたい つよし 喜多井 剛志	アズビル株式会社 アドバンスオート メーションカンパニー マーケティ ング部	制御システムの企画・開発からフィールドエンジニアリングの経験と知見を活かし、ネットワーク関連の国際標準化に貢献。IEC/SC65C/WG16 (工業用無線) の発足当初から国内委員として積極的に参加し、同SC/WG17 (工業用無線の共存) が発足すると、国内委員会幹事を引き受けるとともに、国際エキスパートとしてフィールドバスの標準化に尽力。これらの国際標準化活動について論文発表を行い、普及啓発にも寄与。国際標準化活動における今後の更なる活躍が期待される。
3	さとう いくや 佐藤 以久也	富士電機株式会社 技術開発本部 製品技術研究所 パ ワエレ技術研究セ ンター 共通技術 開発部 主任	IEC/SC22G (可変速電気駆動システム (P DS))において、国内委員会の幹事代理、エキスパートとして、PDSのEMC、機能安全、効率に関する国際標準化に参加。機能安全規格 IEC 61800-5-2 の改正作業においては試験レベルや試験項目について我が国の実情を考慮した意見を積極的に提出。また、効率規格の策定に当たり、欧米と異なる日本の測定方法の妥当性を各国に認めてもらうため、国内測定機器メーカーに協力を呼びかけ勉強会を企画したり、データ収集キャンペーンを計画する等多大な貢献。今後の更なる活躍が期待される。
4	たじま きょうこ 田島 京子	株式会社日立製作 所 法務・コミュニ ケーション統括本 部 CSR・環境 戦略本部 環境企 画部 主任	環境管理規格審議委員会 (ISO/TC207 (環境マネジメント) 対応国内委員会委員) 委員及びエキスパートを平成21年4月より務め、22年よりSC4(環境パフォーマンス評価)国内委員会委員長を務めている。ISO14031(環境パフォーマンス評価 - ガイドライン)の改定、また TS14033(定量的な環境情報 - ガイドラインと事例)作成において先進的な日本の事例を発信し、実用的な国際規格へ多大に貢献した。今後の国内外での標準化活動での一層の活躍が期待できる。

NO	氏名	所属	主な功績
5	なかやま まさお 中山 雅央	パナソニック株式会社 オートモーティブ&インダストリアルシステムズ社 セミコンダクター事業部 パワーデバイスディビジョン 第一開発グループ 第一開発チーム 主幹技師	I E C / S C 4 7 E / W G 2 (マイクロ波デバイス)において、マイクロ波半導体の専門家として、マイクロ波個別半導体・マイクロ波集積回路分野の用語、測定方法の国際規格作成、追補、改訂に従事。また、高周波分野の測定技術に関する経験を基に、既存の測定方法の不十分な項目を明確化し、最適な測定方法を提案するなど、日本提案の I E C 規格化を牽引。W G 2 における活発な活動はS C 4 7 E 国際議長獲得にも寄与するなど、個別半導体分野における我が国の主導権確保に多大な貢献をしてきた。今後の更なる活躍が期待される。
6	びぐす じえふ Biggs Geoffrey	独立行政法人産業技術総合研究所 知能システム研究部門 主任研究員	生活支援ロボットに必須となるソフトウェアの標準化に貢献。ソフトウェア技術に関する国際標準化団体であるO M Gにおいて、ロボット用ソフトウェアのモジュール化の枠組み、位置・測位標準、人とロボットとの相互作用標準の3つの仕様策定に貢献し、枠組み仕様の改訂を議長としてとりまとめた。現在、システムを停止させずに、システムを構成するモジュールを組み替える標準策定を目指している。本年からはI S O / T C 1 8 4 / S C 2 / W G 7 (パーソナルケアロボットの安全性)における国際標準化活動にも参加し、今後の更なる活躍が期待される。
7	よしだ ひろたか 吉田 博 隆	株式会社日立製作所 横浜研究所 研究員	世界的に低リソース (回路規模・電力) な環境に適した暗号技術に対するニーズが高まる中、I S O / I E C J T C 1 / S C 2 7 (情報セキュリティ)において、日本提案の省電力ストリーム暗号をプロジェクトエディタとして国際規格化するなど、当該分野の国際標準化に貢献。また、暗号アルゴリズムやハッシュ関数の国際標準化にもエキスパートとして参加しており、軽量ハッシュ関数に関する新規格プロジェクトの立ち上げにも貢献。今後の更なる活躍が期待される。

[五十音順、敬称略]

平成25年度工業標準化功労者表彰（産業技術環境局長表彰）受賞者

NO	氏名	所属	主な功績
1	さわだ としひろ 澤田 敏弘	一般社団法人繊維評価技術協議会 大阪支所 参事	ISO/I ECガイド65（製品認証機関に対する一般要求事項：その後ISO/I EC17065となる）の認定取得の整備に努め、一般社団法人繊維評価技術協議会が繊維業界として初めてガイド65を取得することに尽力。また、JIS L1902（繊維製品の抗菌性試験方法及び抗菌効果）に基づき、同協議会が運営しているSEKマーク認証制度の活用を図り、JIS L1902の普及に尽力。本認証制度の信頼性を高め、特に、安全性項目を取り入れることによって、消費者の安全性確保に大きく貢献。
2	すみ見 しげき樹 鷺見 繁樹	一般社団法人繊維評価技術協議会 東京本部 参事	JIS原案作成団体事務局として、数多くの繊維関係JIS策定に貢献。現在、洗濯表示記号及び関連試験方法については、一般消費者、アパレル業界、繊維業界、クリーニング業界等、数多くの利害関係者の意見調整を行い、ISOとの整合化を図ったJIS原案作成に取り組んでいる。これまで、馴染みのあった洗濯表示記号が大きく変更することから、全国で20回以上の講演会・説明会を精力的に行っており、新しい洗濯表示記号JIS案の普及・啓蒙活動に尽力。
3	たちはら かつのり 立原 克法	一般財団法人日本品質保証機構 安全電磁センター 試験部 医療機器・信頼性試験課 課長	I EC/TC76（レーザ機器の安全性）において、レーザ製品の安全基準の国際規格改正時に日本意見の反映に貢献。また、測定方法を議論するWGでは日本から唯一のエキスパートとして10年にわたり日本意見の反映及び審議内容の国内フィードバックに尽力。さらには、レーザ製品の安全性に係る国際規格とJISの整合化にも、JIS原案作成委員会委員として尽力する等多大な貢献。

NO	氏名	所属	主な功績
4	はまだ かずお 浜田 和男	中央精機株式会社 技術部 技術企画室	ISO/TC22(自動車)/SC19(車輪)のエキスパートを務め、自動車用ホイール等に関する基本規格の策定に尽力。また、長年に亘り車体・シャシ分野に関するJISの策定に尽力。策定において中心的な役割を果たしたD4220(ホイール取付方式及び寸法)は業界内において広く利用され、製品の安全性確保・利便性向上に大きく寄与。他にも、新興国における基本規格や部品の現地調達等で関与したJISが活用されており、技術の発展や我が国産業の振興に多大な貢献。
5	みやざわ いこう 宮澤 以鋼	神奈川県産業技術センター 企画部 研究開発連携室長	IEC/SC65B(計測及び制御機器)において、PLC(プログラマブル・ロジック・コントローラ)のプログラミング言語の国際規格開発に参画し、日本意見の反映に貢献。また当該国際規格のJIS化作業を原案作成委員会委員として主導。さらには、PLCの国際業界団体の日本支部のチアマンとして、異なるベンダーのPLCへの共通プログラミング言語の実装の推進、国際規格やJISへの準拠の重要性とメリットについての普及啓発に長年にわたり尽力する等多大な貢献。

[五十音順、敬称略]